

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年4月3日現在

研究課題名	報道写真にみるウクライナ避難民の表象 —ロシアと日本の比較分析—	
申請者	氏名	所属機関・職
	大茂矢 由佳	埼玉大学大学院人文社会科学研究所・講師

## 研究成果の概要

本研究は、ロシアと日本の新聞に掲載されたウクライナ避難民の報道写真から、両国の主要マスメディアにおける難民・避難民の表象を比較分析することを第一の目的とした。2024年9月、および2025年3月に、スラブ・ユーラシア研究センター資料室のデータベースから、ロシアの新聞記事の収集を行った。対象の期間は、ロシアによるウクライナ侵攻が開始された日の翌日から2ヶ月間（2022年2月25日～4月24日）である。分析対象とした新聞は、ロシアの主要紙であるКомсомольская правда - Москва（コムソモリスカヤ・プラウダ）、Независимая газета（ニエザヴィーシマヤ・ガゼータ）、Российская газета - Московский выпуск（ロシースカヤ・ガゼータ・モスクワ版）の3紙である。日本の新聞は、読売新聞と朝日新聞の全国版を分析対象とし、ロシア紙と同期間の新聞記事を収集した。

データ収集の結果、ロシアの主要3紙においては、ウクライナ避難民の姿を映した写真の掲載はほとんど確認することができなかった。日本の新聞では、朝日新聞においては、「ウクライナ AND 避難民」というキーワードを含む「写真または図表付きの記事」は上述の期間中に185件あり、そのうち避難民（国内避難民を含む）の写真が掲載された記事は48件確認された。初期に掲載された写真は、表情に乏しい子どもが頻繁に映し出されるなど、いわゆる「かわいそうな難民」としての表象が目立っていたが、4月以降は日本を含む避難先国で新生活を開始した避難民の姿を写した写真が増え、「生き抜こうとする主体」（佐々木2021：200）としての表象へと変化していることが確認された。

今後の課題は、(1) 日本の報道写真との比較を行なう上で、より適切な媒体を検討すること、(2) 日本の新聞データベースでは、著作権等の関係から写真が非表示となっているケースが複数あり、より精緻なデータ収集と分析のためには縮刷版の参照を行なう必要があること、の2点である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

なし

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

2025年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」の班員、①スラブ・ユーラシア地域と国際関係・地政治（担当：岩下明裕）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。